

Human Relations Area Files について

岩 村 忍
矢 野 暢

東南アジア研究センターの積極的な努力によって、京都大学は、本年5月10日をもって Human Relations Area Files の加盟校として、正式に選ばれた。Human Relations Area Files とはそもそもどういうものなのか、また、その加盟校に選ばれることがどういう意義をもつのか、この際、簡単に説明しておきたいと思う。

二〇世紀の自然科学がめざましい進歩を遂げているのにひきかえ、人間や人間社会を研究するいわゆる人文科学・社会科学の、科学としての発達は、ともすれば遅れがちである。もちろん、この分野でも、自然科学に劣らず学問の科学化への努力はなされている。研究の方法論としての実証主義はもはや常識化しているし、専門分野の細密な分化も進んでいる。そして、科学的な体系理論を確立しようとする試みも着実になされてきている。それにも拘らず、人文・社会科学が科学として完璧な発達を遂げることができないのは、なぜだろうか。

人文・社会科学の部門の研究者が、だれしも研究上ぶつかる最大の困難は、データ蒐集の問題であると思う。実証主義に徹する限り、研究者は、自分の研究テーマに関して、あらゆるデータを克明に集めねばならない。とくに、最近のように比較研究が重要な課題となってくると、なおのこと、データ蒐集という研究作業は不可欠になる。いずれにせよ、自然科学とちがいで、人為的な実験が不可能なこの部門では、それを補う意味で、できるだけ数多くデータを集め整理することが肝要なわけである。

人文、社会科学の科学としての発達の遅れの一つの原因は、つまるところ、このデータ蒐集が、自然科学の実験ほど、能率的に行なわれない点にあると考えられる。たとえば、なんらかの研究を行なおうとするば

あいに、自分みずからデータを集めることの困難さはいうまでもないが、他の学者ののこしたデータを克明に参照する作業にしても、かなりの時間と労力を要する。おまけに、人文・社会科学の分野では、専門分化がやたらと方法論の不統一を招き、個々の研究部門が、他の部門から孤立しているのが常である。従って、他部門の研究業績まで参照することは、必要ではあっても、しごくわずらわしいことなのである。

そこで、だれしも夢見ることは、人間の文化や社会についてのあらゆるデータが、専門分野の障壁を超えて、一堂に集められてあり、いながらにして、古今東西のあらゆる人間的な事象についての知識を得ることができるような便宜があれば、ということである。もしそのような便宜があったとしたら、人文・社会学者にとって、まったく、これにまさる福音はないであろう。

ところが、アメリカの合理主義は、その夢をすでに実現させているのである。1949年、合衆国コネティカット州ニュー・ヘヴンに創設された Human Relations Area Files は、まさしく、そのような福音的便宜を世にもたらすものであった。

Human Relations Area Files (以下 HRAF という) は、人間の文化や社会を研究するあらゆる科学にたいし、資料蒐集と研究成果公開の便宜を図ることを目的に謳っているが、その事業は、一口に表現するならば、もっぱら比較文化論の観点から、地球上のあらゆる社会を対象になされた実証的研究の業績をくまなく集め、それを、独自のやり方で体系的に整理し、ファイルに記録した上で、研究者の参考に供することである。つまり、地球上のあらゆる地域社会に関するあらゆるデータを、これまで公けにされている限りにおいて、研究者がファイルを繰るだけの手間で簡便に学

べるように、合理的に整理する事業なのである。

HRAF のファイルは、既刊・未刊を問わず、各国の学者のすぐれた研究業績をば、各ページごとに写真に撮って、5×8インチのカードに印刷したものである。ファイルは、HRAF 所属の専門家の手で、つぎの二つの基準に従って、整理分類されている。第一の基準は、地域別・民族別区分である。すでに、地球上の180ほどの地域社会が HRAF のファイル作成の対象となっており、これには世界の諸国家・諸民族の大方が尽くされている。それが、単に未開社会に限られず、文明社会にまで及んでいることは注目し値する。いま一つの基準は、主題別区分、いいかえると、関連項目別の区分である。すなわち、ファイルの記載内容に応じた区分であるが、HRAF は、独自の観点から、800余りの主題項目を定め、それを全体として Outline of World Culture という名のもとに体系化し、これに従ってファイルの整理区分を行っている。以下に、その Outline of World Culture の一部を、参考までに紹介しておこう。

- 55 Individuation and Mobility
 - 551 Personal Names
 - 552 Names of Animals and Things
 - 553 Naming
 - 554 Status, Role and Prestige
 - 555 Talent Mobility
 - 556 Accumulation of Wealth
 - 557 Manipulative Mobility
 - 558 Downward Mobility
- 56 Social Stratification
 - 561 Age Stratification
 - 562 Sex Status
 - 563 Ethnic Stratification
 - 564 Castes
 - 565 Classes
 - 566 Serfdom and Peonage
 - 567 Slavery

HRAF は、現在までに、数百万枚のファイルをすでに作成している。そして、そのファイル集が、上記の基準によって、きちんと分類・整理されたうえで、7段キャビネット、37函に収められており、だれでも簡

単に検索できる仕組みになっている。

現在の HRAF は1949年にエール大学に創設されたものであるが、それが、49年の創設前に、20年以上にもわたる前史を有していることは興味深い。すなわち、HRAF の前身は、1929年にエール大学に設けられた Institute of Human Relations である。この Institute 設立の趣旨は、従来てんでんばらばらに研究されてきた人間科学の諸分野、たとえば、心理学、精神病理学、社会学、人類学などをば、なんらかの方法で相互に関連づけ、ひいては、人間の行動様式に関する統一的科学理論を追求することであった。この理念が、いまの HRAF の目的理念と合致することはいうまでもない。この Institute において、その後、G. P. Murdock 教授らを中心に、それまでに公けにされていた人類学、心理学などの諸業績を蒐集・整理し、ファイルに体系的に記録する努力が始められたのである。そして、この際の努力の成果が、現在の HRAF の母体をなしている。このおり、資料集纂の方便として考案されたのが、Outline of Cultural Materials であった。これは、現在のファイル分類の主題別区分基準である Outline of World Culture の原型をなすものであった。すなわち、Outline of Cultural Materials が 1945、1950 の両年に改正を受けて Outline of World Culture となったのである。いづれにせよ、この Outline は、先にその一部を紹介したが、人間社会のあらゆる局面をほぼ完全に包括しう立派なものであって、ときには、図書館の図書分類の基準としても利用されている。

このように30年代から蓄積が始められたエール大学のファイル集は、それが本質的に、あらゆる人文・社会科学者の夢にかないうるものであったが故に、また、その後、地域研究という新しい型の学問が漸次勃興してきたことも幸いして、そもそもの創案者が予期した以上の貢献を世になすこととなり、その存在意義は次第に高まったのである。しかしながら、そのファイル集は、たとえ世に真価を認められたにせよ、その所在地がニュー・ヘヴンのエール大学構内に限られている限りは、有用性の点で、大いに制約されたものでなければならなかった。

1949年に改めて HRAF が創設された理由は、ひとえに、その有用性の限界を打破することであった。すなわち、HRAFの創設と共に、エール以外の大学に、

エール所在のファイルの完全なコピーが備え付けられる道がひらけたのである。

HRAF は、そのファイル・コピーを備え付けている大学、すなわち HRAF 加盟校によって組織されている。HRAF は、大学以外の加盟を受け付けない。HRAF の本部は、歴史的沿革の故に、エール大学におかれており、エール大学の一付属機関となっている。しかし、HRAF の運営に直接たずさわるのは、これに加盟している大学の代表者（1校1名）が構成する理事会である。

今年の春まで、HRAF 加盟校は、つぎの21大学であった。

1. University of Chicago
2. University of Colorado
3. Cornell University
4. Harvard University
5. University of Hawaii
6. Indiana University
7. State University of Iowa
8. University of Michigan
9. University of North Carolina
10. University of Oklahoma
11. University of Pennsylvania
12. Princeton University
13. University of Southern California
14. University of Utah
15. University of Washington
16. Yale University
17. University of Pittsburgh
18. University of Illinois
19. Southern Illinois University
20. Smithsonian Institution (以上合衆国)
21. Ecole Pratique des Hautes Etudes (パリ)

HRAF の加盟校に選ばれることは、きわめて困難である。なぜならば、加盟校は本部で作成するファイルの送付を受けるが、その反面、一種の反対給付のような形で、研究業績を本部に提供するよう、期待される。つまり、加盟校になるには、ファイルを十全に活

用できるだけの能力を備え、あるいは、HRAF に逆に資料を提供するだけの能力を備えた大学でなくてはならない。その意味で、HRAF 加盟校であることは、大学の研究機関としての威信の高さを物語って余りあることである。このたび、京都大学が、東アジア唯一の HRAF 加盟校たることを認められたことは、わが国が、本学を中心として、この地域における人文・社会科学の研究の殿堂たりうることを認められたにひとしく、きわめて意義深いことである。

なお、HRAF のファイル・コピーには、Original copies と Micro copies との二種がある。Original copies は正式加盟校にのみ配布される。Micro copies は、HRAF に加盟しない機関のために、Original copies をマイクロフィルムに撮ったものである。(わが国では、東京大学とアジア経済研究所に micro copies が備えられてある。なお早稲田大学も micro copies の一部を備えている)。Original copies は、数が制限されているので、東アジアでは、京都大学以外の加盟は認められないものと思われる。

HRAF に加盟し、ファイルの送付を受けている上記21の大学では、ファイルは、多面的に活用されている。学生の教材として用いられるのみならず、教官や大学院学生の研究資料として、また、地域研究の補助資料として、その用途は無限にひらけている。HRAF の提供するファイルだけにもとづいて執筆された書物・論文は、枚挙にいとまないほどである。HRAF のファイルは、「壁のない実験室」と呼ばれることがある。事実、あらゆる研究分野の研究成果を、専門や方法論の差異にわずらわされることなく、純粹のデータとして、いながらにして参照できるこの便宜は、文字通りその名に値するものであるといえよう。このファイル集を備えつけることによって、人間や人間の社会・文化に関するあらゆる科学的研究が、時間と労力の無駄なく行なわれうることが約束されるのである。たとえば、特定のテーマについての比較研究も、あるいは、特定地域の総合的研究も、更には、一般理論の構築にしても、このファイル集を活用することによって、どれほど容易になされうるか、もはや、改めて説明するまでもないであろう。